

令和4年度 氷見市教育総合センターだより 第4報

「ENGLISH セミナー2022」

7月26日（火）開催

市内小学校・義務教育学校の6年生が、「私がALTにおすすめする氷見のすてき」や「私が自慢したい日本の文化」のテーマでプレゼンテーションを行う「ENGLISH セミナー2022」を開催しました。33



名の児童は、日頃の外国語科の授業で学習したことを生かし、プレゼンテーション用の写真や自分で描いた絵等を提示しながらジェスチャーを交えるなど、堂々と自分の思いを発表しました。また、西條中学校英語部の生徒7名が、流暢な発音でモデルプレゼンテーションを披露しました。ALTによるクイズもあり、参加者全員でALTの母国の国旗や好きな場所、ALTが日本や氷見市にある好きな食べ物等について答え、日本の文化や生活の違いに触れながら楽しい時間を過ごしました。

<参加児童の感想>

- ALTの国のことをたくさん知ることができてよかったです。
- いろいろなALTの自然な英語を聞くことができました。
- 中学生がすらすらと発音し、とても上手で驚きました。
- 発表するときはとても緊張したけれど、練習どおりに発表できたのでよかったです。
- ジェスチャーをしながら話している人のプレゼンテーションが参考になりました。
- ほかの人の発表を聞き、氷見にもすてきなところがたくさんあることが分かりました。

学力向上研修会

7月29日（金）開催

テーマ 国語科の授業改善に向けて

一言葉に対する主体性に支えられた言葉に関わる対話的な学びー

講師 福井大学 教育学部 准教授 萩中 奈穂美 先生

夏季研修会の第1弾として、福井大学教育学部准教授 萩中奈穂美 先生を講師にお迎えし、学力向上研修会を開催しました。

研修会ではまず、国語科に求められている「言葉による見方・考え方を働かせる」＝言葉への自覚を高めるため、「言葉」を「語彙」と考えて、語彙指導を充実させることが示されました。また、怒りを表す複数の語句を怒りの気持ちが強い順に並べるというワーク等を通して、普段何気なく使っている語句を自覚的に捉えるということを体験しました。

後半には、「大造じいさんとガン」（小5国語：光村図書）の一部を使い、グループで教材研究を行いました。また、子供自身が言葉に関して意識的に思考・判断・表現することが、言葉に対する主体的な学びだということや、「対話的な学び＝対話をする事」ではなく、対話を手掛かりにして子供たち一人一人に学びを成立させることだということを、実際の授業場面を示しながら分かりやすく教えていただきました。国語科の授業改善への新たな視点や気づきを得ることができた研修会となりました。



<参加者の声>

- 無自覚なものを意識させるのが国語科ということが印象に残りました。今までそのように考えたことがなかったので、意識が変わりました。
- 今まで言葉についてこんなに考えたことはなかった。子供に考えさせることも少なかった。国語の授業の難しさを日々感じているが、正しい言葉を使うことが大事だと感じた。語彙が少ない子供が多く、どのように増やしていくかを常に考えていたので、つながりをもった語句を意識していこうと思った。
- 「話し合い」ではなく「聞き合い」こそが大切であるというお言葉に、本当にそのとおりだと思いました。これからは、「よい聞き手」の育成を目指して、「聞くこと」の指導を充実させていきたいです。

教育セミナー

8月2日（火）開催

テーマ 「ことばの力」で子どもを育てる

ー主体的・対話的で深い学びを生むための学級集団づくりー

講師 菊池道場 菊池 省三 先生

昨年度は、新型コロナウイルス感染症拡大のためリモート開催でしたが、今年度は、願いが叶って対面での研修会開催となりました。菊池先生は、動画を駆使して実践場面を数多く紹介されたり、参加者同士で考えを述べ合う場を設定されたりと、終始エネルギーに高められ、会場は熱気に包まれました。

コミュニケーションの量を増やし、質を高め、対話を促して深い学びへとつなげていくことなど、多くの示唆をいただきました。



<参加者の声>

- クラスの雰囲気をつくるのは教師なのだと改めて感じました。2学期はまず、ほんわか雰囲気づくりを大切にしていきたいです。
- 子供たち一人一人がもっているよさを価値付けて認めているからこそ、菊池学級の子供たちは、自己表現が豊かで、他者のことも温かく見守ることができるのだと思いました。
- 本気で教師としての構えを変えたいと思いました。菊池先生から、自分自身が変わる覚悟をもたせていただきました。
- 正解のない問いに対して互いの考えを伝え合う場、質問し合いながら考えを深めていく場を工夫していきたいと思いました。即興力を高める必要も感じました。
- 「喜んで登校、満足して下校する学校づくり」を目指して頑張っていきます。

ふるさと教育研修会

8月4日（木）開催

内 容 氷見市立博物館見学、郷土の先賢「斎藤弥九郎」についての講話、
ひみラボ水族館の見学、体験ワークショップ等

講 師 氷見市教育委員会 主任学芸員、副主任等

本研修会は、新規採用教員及び転入教員を対象に、郷土に対する理解を深めるとともに、教材としての活用方法を探ることを目的として毎年実施しているものです。

博物館では解説を聞きながら展示物を見学し、紙芝居（祇園祭）を視聴しました。その後、3月に発刊されたマンガ本「幕末の剣豪 斎藤弥九郎」を活用した興味深い話を聴きました。また、ひみラボ水族館では、ワークショップを体験しました。参加者は、郷土の魅力にたっぴりと浸りながら、ふるさと教育への興味・関心を高めていました。



<参加者の声>

- 今回氷見について、歴史や現在発展中の取組まで、多方面から魅力を感じることができ、更に氷見が好きになりました。
- ひみラボ水族館については、こんなにもおもしろい所があることに驚いた。たくさんの工夫がなされているこの施設を、子供たちの成長に生かしていきたいです。
- 郷土に関する専門的な知識を豊かにして、そのおもしろさを「だれにでも分かる」ように工夫して伝えていきたいです。

生徒指導研修会

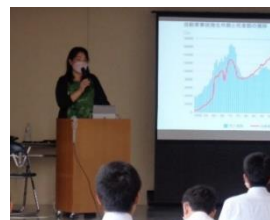
8月10日（水）開催

テーマ 児童生徒の自殺の動向と私たちにできること

講師 中央大学 人文科学研究所 客員研究員 高橋 聡美 先生

SOSの出し方教育や児童生徒のSOSの受け止め方等に関する講義を通して、児童生徒理解の在り方について理解を深めるため、生徒指導研修会を開催しました。

講義では、自殺や自傷行為等に関する様々なデータや具体事例が示され、児童生徒の自殺者数がコロナ禍で急増し、高止まりの状態であることや、原因は学業不振や家族のしつけ・叱責等であり、全ての子供たちに危機があることをお話いただきました。また、近年は風邪薬等市販薬の大量服用という事案が増えているなど、児童生徒の自殺の現状についても教えていただきました。



学校での自殺予防教育は、日頃の児童生徒の悩みや困りごとに丁寧に向き合う（SOSを受け止める）ことが大切だということと受け止め方の具体的なスキルをお示しいただき、今後の児童生徒との関わり方等について学びを深める機会となりました。

<参加者の声>

- 小学生でも自傷行為が多いことやその原因がいじめだけでなく、家族との関係が多いことに驚きました。子供たちのSOSを受け止めて、生きづらさを減らせるようになりたいと思いました。
- SOSの受け止め方（受容傾聴）の仕方について、高橋先生ご自身の体験談を例に話を聞いたのが、大変分かりやすかったです。ジャッジ、アドバイスしたくなる気持ちをちょっと隣に置いて、まるっと受け止めることを実践していきたいです。



高橋先生のご著書がセンター貸出用図書にありますので、いつでもご利用ください！

第2回若手教員研修会

8月24日（水）開催

テーマ トークグラフィック

講師 トークグラフィッカー 山口 翔太 先生

昨年度に引き続き、「板書に生きる文字や絵での記録（第2弾）」として、トークグラフィッカーの山口翔太先生をお招きし、グラフィックレコーディングの基礎・実践を学び、業務への活用について考える場となるよう、研修会を開催しました。

グラフィックレコーディングの効果として「文字、音、映像と異なり、一目で見ることで全体像が分かる」「話合いをスムーズに展開できる」「テキストでは分かりづらい曖昧で複雑な関係性が明確になる」「すれ違いを減らすことができる」「表情や場の雰囲気を絵や色で表し、コミュニケーションのサポートに使うことができる」などがあり、学校現場での活用についてご示唆いただきました。参加者は、実際に太いペンを使ってグラフィックレコーディングを体験し、自分が感じたこと、考えたことを分かりやすく表現していました。



終末のグループワークでは、学校現場での活用について意見交流したことをグラフィックレコーディングでまとめ、今後の実践について考えることができました。

<参加者の声>

- 話合い活動において、児童生徒の考えをまとめるのにとても有用だと感じました。
- 絵が苦手な自分でも、楽しく絵をかくことができました。学校で使えるような技法がたくさんあり、今後活用していきたいと思いました。
- 視覚的理解と聴覚的理解が同時に行えるところが良かったです。
- ペアやグループでのワークショップが実際にできて良かったです。

小・中・義務教育学校教務主任会と連携し、学力向上推進チームより研究主事を招いて、結果の分析と活用に向けた研修会を開催しました。

研修会では、全国学力・学習状況調査の目的の一つである「学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる」ために、①「新しい学習指導要領が求める育成を目指す資質・能力を踏まえ、それを具体的なメッセージとして示す」②「調査問題自体が教員や児童生徒に対して土台となる基盤的な事項を具体的に示すものであり、教員による指導改善や、児童生徒の学習改善・学習意欲の向上などに役立つ」という調査問題作成の基本理念の説明を受けました。

研究主事からは、全国学力・学習状況調査が示すメッセージとは、①「子供たちにどのような力を身に付けさせればよいか」②「教員がどのような授業づくりを進めていけばよいか」という、今求められている「教育の方向性」が示されていると強調されました。そして、以下の教科に関する出題傾向から、授業の在り方や授業改善の視点をもつとともに、どの教科においても日常生活の場面と関連させた授業づくりが大切であると教えていただきました。

＜教科に関する出題傾向＞ ～抜粋～

小学校国語

- 言語活動を通して身に付けさせる指導事項を、各領域からバランスよく取り上げ、言語能力の定着を確かめる問題
- 日常の生活場面や授業場面で、目的や意図に応じて内容を的確に捉え、表現の仕方等を工夫しながら話したり書いたりすることができるかどうかをみる問題

中学校国語

- 学習指導要領において育成を目指す資質・能力を踏まえ、生徒が、目的意識を明確にして言語活動を行う場面や、助言を生かして修正しながら学習を進める場면을題材にした問題

小学校算数

- 図形の意味や性質を基に、図形の構成の仕方を考察する問題
- 目的に応じてデータの特徴や傾向を捉え考察する問題

中学校数学

- 論理的に筋道を立てて説明したり、数学的な表現を用いて適切に表現したりする力を問う問題
- 資料の傾向を捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する力を問う問題
- 事象を数学的に解釈・考察し、問題解決の方法を数学的に説明する力を問う問題

小学校理科

- 事象との関わりの中で児童が自ら問題を見いだす問題
- 自ら考え、対話しながら見通しをもって問題を解決する問題
- 学習活動を自ら振り返り、新たな問題を見いだしたり、さらに追究したりする問題

中学校理科

- 課題を確かめるための観察・実験の計画を立案することを問う問題
- 観察・実験の結果を分析・解釈することを問う問題
- 自らの考えや他者の考えを検討して改善できるようにする問題



*** 多くの方々に ご活用いただいています！ ***

- ・夏季休業中には、多くの先生方にセンターの所蔵図書を読んでいただき、4月からの貸し出し冊数は、**131冊**(8月末現在) になりました。
- ・本年度、研修会でご指導いただいた**多田孝志先生、菊池省三先生、萩中奈穂美先生、高橋聡美先生、水上和夫先生**等の図書を揃えてあります。また**学習指導案集**もあります。
- ・これからもセンター所蔵図書や資料を積極的にご活用ください。(返却は封筒・棚入れで結構です。)